

# 令和2年度

## まちづくり推進部の方針書

部名	まちづくり推進部
部長名	佐藤 雅義

### 1. 部の使命(ありたい姿)

協働・文化・安全安心・健康をキーワードに、「人と地域が燦くまち」を支えます。	
担当政策	政策6: やさしさと笑顔があふれる市民が主役の地域づくりを進めます
担当施策	3-1: 安心して暮らすことのできるまちづくりの推進 6-1: 市民の主体的な活動の支援と地域づくり活動の充実 6-2: 男女が尊重しあう社会づくり 6-4: 市内外との交流連携の推進

### 2. 部の抱える課題(現状)

(1) 自ら地域課題の解決を目指す地域運営組織を、全地域に設置する必要があります。
(2) 歴史・文化・マンガ等、横手の宝を、一層まちづくりに活用する必要があります。
(3) 公共施設の適正な維持管理と再配置により、安全安心のまちづくりを進める必要があります。

### 3. 今年度の『スローガン』

常に一步前へ、頼れるまち部
---------------

### 4. 今年度の方針

(1) 市民が主役の地域活動による持続可能なまちづくりと、男女共同参画を進めます。
(2) 歴史・文化・マンガ等、横手の宝を活かした、市民が誇りに思えるまちづくりを進めます。
(3) 公共施設の適正な維持管理による安全安心の確保と、市民サービスの向上を図ります。

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	市民が主役の地域活動による持続可能なまちづくりと、男女共同参画の浸透
	取組内容	①地域運営組織の運営と設立を支援、全地域で地区交流センターの芽を育てます。 ②公民館から地区交流センターへの移行と地域活動を支える諸制度について、わかりやすく市民に提示します。 ③ワークライフバランスと男女共同参画の推進を図ります。
(2)	実現したい成果	歴史・文化・マンガ等、横手の宝を活かしたまちづくり
	取組内容	①マンガ活用構想の推進により、市内外へ増田まんが美術館の魅力の浸透を図ると共に、増田の町並みとの連携を図ります。 ②文化財保存活用地域計画案の策定を目指します。 ③誰もが応援したくなる、ふるさと納税の在り方を構築します。
(3)	実現したい成果	公共施設の適正な維持管理による安全安心確保と、市民サービスの向上
	取組内容	①道路・河川・公園・建物等公共施設の適正な維持管理と再配置を進めます。 ②市民に寄り添う窓口サービスの向上と、健康寿命の延伸を目指します。 ③雄物川庁舎整備及び十文字地域多目的総合施設整備の工事進捗と完成後の円滑な機能移転を図ると共に、増田庁舎改修の適正な施工管理を行います。 ④常に市全体と地域のことを考え、成長し続けるプロの行政マンを目指します。

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 市民が主役の地域活動による持続可能なまちづくりと、男女共同参画の浸透**
- ①地域運営組織の形成支援にあたり、大雄、山内の2地域にて地区交流センター準備委員会を各2回開催した。また、境町・黒川2地区では地域の課題解決に向けた合同ワークショップ開催に向けた住民打合せ)を2回実施した。
  - ②12月議会定例会での地区交流センター設置条例の制定を目指し、作業中である。
  - ③男女共同参画第4次行動計画の策定のため、検討会議を2回開催し既存計画を基にした計画の修正等にあっている。男女共同参画に係る啓発活動については、市報掲載等のほか、県が主催したハーモニーフェスタへの協力等を行っている。
- (2) 歴史・文化・マンガ等、横手の宝を活かしたまちづくり**
- ①コロナ禍の中、感染予防に最大限の配慮をしながら企画展を重ね、4月21日からの1か月間の休館があったにもかかわらず、9月末時点で前年度の45.6%の入館者を確保している。特に「ワンピース展」を開催した9月の入込みは前年同期を上回り、増田の町並みへの好影響をもたらしている。
  - ②文化財保存活用地域計画については、歴史文化遺産保存活用推進協議会での協議を経て、地域調査会を設置し原案作成作業を進めているところである。
  - ③ふるさと納税については、返礼品の提供事業者と協議を行い新たな返礼品を開発の検討を行うと共に、受付サイトの拡充や返礼品の魅力アップにより、寄附額の増加を目指しているところである。巣ごもり需要もあつてか、4月から9月までの累計で件数:9,172件(5,611件、前年比163.5%)、寄附金額:118,030,107円(79,418,000円、前年比148.6%)と伸びを見せている。
- (3) 公共施設の適正な維持管理による安全安心確保と、市民サービスの向上**
- ①公共施設の適正な維持管理に努めているが、一部雨漏り等の発生により指摘を受けた点は反省したい。
  - ②コロナ禍により、一部健診等の実施が遅れが見られたが、現在当初予定の事業はほぼ実施されている。
  - ③雄物川庁舎と十文字地域多目的総合施設の工事は順調に進捗している。増田庁舎の改修も予定どおりである。
  - ④コロナ禍により、庁外での職員研修は大部分見送られている。その中で、積極的な課内研修に努めている課も見られる。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 市民が主役の地域活動による持続可能なまちづくりと、男女共同参画の浸透**
- ①大雄は令和3年度、山内は令和4年度からの地区交流センター化に向け、引き続き体制整備のための準備委員会の協議を重ねる必要がある。また、境町・黒川2地区では、年度内に合同ワークショップを3回程度実施し、地区交流センターの土台作りを行いたい。
  - ②地区交流センター設置条例について、議会と市民の理解が得られるよう説明を尽くしたい。
  - ③男女共同参画第4次行動計画の策定については、引き続き検討会議を中心に作業を進める。また、男女共同参画フェスティバルやワークライフバランス講演会・ワークスタイル研修の実施に向け調整を図る。
- (2) 歴史・文化・マンガ等、横手の宝を活かしたまちづくり**
- ①横手市増田まんが美術館を中核とした地域資産活用事業の活用にあたり、庁内関係課との協議を重ね、併せて国と綿密な調整・相談をしながら事業内容を決定する必要がある。
  - ②文化財保存活用地域計画については、今後も協議会を重ね専門家の知見を得ながら策定作業を進める。また、新たな事業として、寄附いただいた旧片野家の維持管理及び調査と利活用に向けた検討作業も課題である。
  - ③ふるさと納税については、11月から受付サイトを4社から5社へ拡充予定。引き続き返礼品の魅力アップに努める。
- (3) 公共施設の適正な維持管理による安全安心確保と、市民サービスの向上**
- ①降雪期を迎えるが、引き続き市道を含め公共施設の維持管理に万全を尽くしたい。
  - ②市民福祉部のマイナンバーカード臨時交付窓口開設に協力すると共に、申告相談のスムーズな運営にあたる。
  - ③雄物川庁舎と十文字地域多目的総合施設のスムーズな運営と、新たな事業である十文字道の駅の空調設備改修工事の進捗を図りたい。
  - ④課内研修や各種研修の実施により、職員のスキルアップを目指す。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 市民が主役の地域活動による持続可能なまちづくりと、男女共同参画の浸透**
- ①大雄地域においては、令和3年度からの地区交流センター化に向け、運営協議会が設置された。山内地域では令和4年度からの地区交流センター化に向け、ワークショップを5回開催するなど準備を進めている。さらに、境町・黒川2地区でもワークショップの開催が3回を数え、地道な準備を進めている。これらの地域においては、引き続き着実な地区交流センターとしての事業実施及び組織化を目指し、支援が必要である。また、地域づくり活動補助金の有効活用や、一部5年限りとされている補助対象年限について、議会からも検討を求める声があり、令和3年度の検討課題としたい。
  - ②地区交流センター設置条例の制定について、議会からは条例の内容には賛成であるものの、全地域での地区交流センター化への道筋が見えないことから、時期尚早と判断された。引き続き、市街地地域の地区交流センター化について検討したい。
  - ③男女共同参画第4次行動計画の策定については3月末の公表を予定しており、今後計画に沿った事業推進が求められる。
- (2) 歴史・文化・マンガ等、横手の宝を活かしたまちづくり**
- ①横手市増田まんが美術館を中核とした地域資産活用事業においては、事業初年度に加えコロナ禍ではあったが予定の事業実施ができた。令和3年度は、新たな事業を一層積極的に展開したい。
  - ②歴史文化遺産保存活用地域計画については、予定どおり素案の策定を終え今後は国の認定を受ける手続きに入る。認定後は、計画に沿った事業展開を目指す。旧片野家の活用方針案の検討を含めた、北部重点区域環境整備方針及び整備構想策定事業は令和3年度の課題である。
  - ③ふるさと納税については、11月から受付サイトを4社から5社へ拡充済み。
- (3) 公共施設の適正な維持管理による安全安心確保と、市民サービスの向上**
- ①記録的な豪雪により、道路除雪においてもフル回転であったが市民生活は大きな影響を受けた。
  - ②マイナンバーカード臨時交付窓口開設や申告相談については、スムーズに運営できた。
  - ③雄物川庁舎と十文字地域多目的総合施設は問題なく稼働している。繰越となった十文字道の駅の空調設備改修工事については、令和3年度のできる限り早い時期の完成を目指したい。
  - ④積極的な独自の課内研修を行った地域局の実績について、部内で周知したい。